

香川県教育施策推進協議会（第４回会議）における主な意見

１ 開催日時等

- (１) 開催日時 令和８年６月１２日（金） １５：００～１７：００
 (２) 場 所 香川県庁本館２１階特別会議室

２ 議題

香川県教育基本計画について

- (１) 本協議会のこれまでの協議内容とこれからの見通し
 (２) 香川県の教育をめぐる現状と本計画の位置づけ
 (３) 子ども及び教育関係団体からの意見の聴き取り結果について
 (４) 新しい香川県教育基本計画の施策の方向性（案）について

３ 出席委員

会 長	平 篤志	香川大学教育学部長
副会長	吉田 洋子	香川県商工会議所女性会連合会 会長
委 員	青井 静	香川県社会教育委員・家庭教育推進専門員 香川県子ども読書活動推進会議委員
	大林 典子	スクールカウンセラー・臨床心理士・公認心理師
	岡田有里加	香川県ユニセフ協会事務局長
	岡本 幸江	日本放送協会高松放送局長
	工藤 りか	株式会社四国総合研究所 電子アグリ技術部 副部長 (研究主幹) 兼アグリバイオグループ グループ長
	西藤 翼	株式会社 Soilook 代表取締役
	堺 るり子	香川県立香川中部支援学校、香川県立聴覚支援学校、 香川県立視覚支援学校 学校評議員 (元香川県立香川丸亀養護学校校長)
	杉本 勝利	香川県高等学校ＰＴＡ連合会会長
	田中 敬子	観音寺市立豊浜小学校 学校運営協議会委員
	間嶋 浩	香川県町教育長会会長 (三木町教育委員会教育長)
	松浦 由紀	株式会社四国新聞社編集局地方部長
	吉田 和恵	香川県ＰＴＡ連絡協議会 母親代表委員長

4 主な意見等

(3) 子ども及び教育関係団体からの意見の聴き取り結果について

- 子どもたちの意見を集めるとどういふものになるのか、あまりイメージがわいていなかったが、すごくいい意見がたくさんあって驚いている。今回、子どもの声が集まって、現場感を感じる話も含まれていると思った。この意見をもとに、県側からのフィードバックとして何か作ったり、あるいは毎年アンケートをすることは考えているか。
- 資料が届いて大変興味深く拝見した。子どもたちの生の声がこれだけ記載されていることがとても嬉しいと思いながら見た。この情報が校長会などで現場の先生たちに届く機会があったらいいと考えた。
- 子どもたちからの声をぜひ全教職員に何らかの形で届けてもらえたらと思う。それに加えて、意見を集めてこんなふうになったというのを子どもたちが知ること、自分たちが通っている学校をこんないい学校にしていきたいという思いが強まると思うので、教職員はもちろんのこと、子どもたちにも結果をフィードバックできたらと思った。
- 子どもたちが自由に記載している内容を見たら、非常に参考になる意見が非常に多くて、小学校では学校の環境に対する意見であったり、中学校になると子どもたちの個性を生かしたいとか、高校生になると社会に向けて人間力の形成に役立つような環境づくりをしていきたいということで、小中高で子どもたちがこういうことを思っているというのが分かる素晴らしいアンケートだと思っている。香川県教育委員会の中にはいろんな協議会があると思うが、ぜひ共有して活用していただきたい。
- アンケート結果で強く思ったのは、発達段階によって子どもたちの一番強く望んでいることが違うということ。発達段階に応じて、子どもたちの思いや願いを叶える教育課程や内容であって欲しいと願っている。幼児期の人格形成の基礎を培う時期のアンケートは難しいと思うが（実施出来ないのが残念でもあるが）、幼児期から継続する学びの基礎を培う低学年で大切にしたいのは、勉強が分かる・身体を動かす・先生や友達が好き（一緒に学ぶのが楽しいと思える関係）。そんな要素や子どもたちの強い思いがこのアンケート結果の中にたくさん隠れている感じがした。
- 香川県の子はとても真面目だと思うのが、4ページのグラフでまず先に成績で、「⑨辛いことや悩みがあるときに話を聞いてくれる人がいること」が勉強のこと以外で2番目になっている。とりあえず心のことは置いておいて、先に勉強という感じもするのかなと思いつつ、それでもやっぱり心のことは大事な事だなとグラフを見て思った。15個の質問以外で意見を書いてもいいよ、さらに伝えたいことを書いていいよというページがあり、ほとんどの学校で“いじめ・差別・けんかのない学校”や相談とか安心感ということが出ていたと思う。とても大事な事ではないかなと思い、心の仕事をする者として身の引き締まる思いがした。
- 児童生徒の皆さんからいただいたこのヒアリングの結果をどのように基本計画に反映したか、または反映できなかったかというのは、10月の次期計画素案の協議のときに示していただけるのか。それとも令和9年1月の協議のときに示していただけるのか。

(4) 新しい香川県教育基本計画の施策の方向性(案)について

- 資料4-2を読んだが、前の計画で最後にあった“郷土愛を育成する”を一番上に持ってきたのは本当に素晴らしいと思った。私も新聞を作っていて、この3、4年本当にシビックプライドの大事さ、自分が育った地域に誇りを持っている子を育てるとするのは、将来的にどこかに出ても帰ってきてくれたりとか、出たままでも想ってくれたりとか、そういうので全然違う。ただ、地域によってすごく差があって、心配している。
- 心を育成する、いじめなどに対して明るい学校であって欲しい、相談できる人がいて欲しいというのがすごく子どもたちの願望としてあるが、ここが柱2の中に学力と一緒にまとめられているところがすごく気になった。前回の計画ではきちんと項目を立てて、豊かな心を育むとか、共感的理解というふうに項目を立てている。
- 現行の計画と新しい計画を見比べて、何が消えて何が増えたか確認したのだが、気になったのは“道德教育の充実”が消えたこと。“自己肯定感・自己有用感の育成”や“豊かな感性や情操の育成”で捉えていくという説明があったが、道德教育の充実という柱がなくなって中をどんなふうに書いていくのか。現行の計画では62ページから2ページにわたって記載されているが、これがどんなふうに表示されるのかなと。道德教育の充実が消えて非常にびっくりした。
- 柱1～4とまとめると、どこに施策を分類するかが非常に難しい。例えば、柱1には“ICTを活用した教育の推進”があり、柱2には“読解力・情報活用能力の育成”がある。情報活用能力は読解力とも引き離せないが、いわゆるSNSでの情報にいかにか正しく触れていくかというところの情報活用能力になると、ICTを活用した教育の方にくっつくのかなとか、この分類の仕方が非常に難しい。
- ICTの部分は現行の計画では“学力の育成”の中に入っていて、情報を収集して活用していく中で学力の育成に役立てていこうということだと思う。新しい計画では“香川の良さを礎に、発展的な社会の創り手となれる力の育成”の中に入っていて、私は香川の良さを情報発信していくことにICTも活用するというので、今までは情報を活用するという使い方だったICTを、今度は自ら情報発信をする能力を高めていくというような使い方でこちらに入れたのかなと思った。郷土の良さを発信していく、あるいはグローバル人材の育成のためにICTを活用するというので、ここに入れたと思ったのだが、どうか。
- “香川の良さを礎に、発展的な社会の創り手となれる力の育成”はそのとおり非常に大事なことだと思うが、柱の一番上に“郷土に誇りを持つ教育の推進”が上がってきたことで、前回の計画と構成が違っただけでも、受ける印象がすごく違うと思った。“郷土”は辞書的に言うと“生まれ育った土地”という意味で、ここ(香川)で生まれていない子どもたちもいる。親の仕事の関係で来たり、他国で生まれて来る子どもたちも増えていく中で、前回の“郷土を愛し、郷土を支える人材の育成”という文脈なら、どんな生い立ちであっても今この場で暮らしている子たちは含まれるというニュアンスはしたが、今回この文脈で見ると(その子たちが)弾き飛ばされるような感じもあって、それは損というか、そういう趣旨ではないのではないかと思って、そういう印象がしたことを伝えさせていただいた。

- バラエティ番組を見ていたら、街頭で香川県の中高生に“我が県の偉人3人”を質問していた。回答は1位が平賀源内、2位が菊地寛、3位が空海で、私は菊池寛についてあんまり教えてもらっていないが、それを香川県の中高生が回答していることに、教育が生きているのかなと思った。小学校の教育でも、地域の偉人を深掘りして教えてもらっていてすごくありがたいと思ったが、それを保護者は知らないので、“親と一緒に話してね”という感じで教育に親も巻き込んで欲しいと思った。
- 柱3の“学びを支える環境の整備・充実”の中に“学校における働き方改革の更なる加速化”と“質の高い教職員の確保と資質・能力の向上”があるが、お願いしたいのは子どもたちの心や学力に応じて、良さや力を引き出していく能力のある先生に育って欲しいということ。働き方改革という言葉の裏が大事で、例えばクラブ活動の地域移行などから編み出された先生の時間を個々の子どもに対応する力や個々を理解する感性を高める事に使ってもらえたら、先生も子どもも質の高いものになっていくのかな、それぞれ力を蓄えたものになっていくのかなという期待である。
- 現行の教育基本計画を策定するときに、就学前教育ではなくて“幼児期の特徴を生かした”幼児期の教育の推進であるべきだと申し上げた。最近懸念しているのは、こども園が増えて、それが教育委員会の管轄でないこと。こども園を教育委員会の管轄にというか、小学校への連動をしながら人格の基礎を培うことが、学力の基礎を培うことに繋がるということをしかり位置付けていただけたらありがたいと思っている。
- 柱4に“地域と協働する学校づくりの推進”とあるが、学校や先生に背負わせ過ぎない計画づくりも重要な視点だと思う。公共の場、共助の体制を作る上で、そういった視点で考えた際に、産業界、経済界とどう足並みを合わせてやっていくかが明記されていないと感じている。一定すり合わせができれば、経済界からいろんな働きかけができると思うので、今どういった取組みがあるか教えていただきたいし、我々が何か考えられる部分があるなら協力したいので意見をお聞きたい。
- 学校が子どもたちの学び舎の部分と先生方の職場という部分を整理した議論がもう少し深まればいいと思う。ただ、前々回までの計画のように子どもたちに何かの力をつけさせようということではなく、学びや育ちのために大人が取り組むべきことが盛り込まれてきているのは大変検討の跡が見られると思う。その上で、子どもたちの思いのこもったアンケートをぜひ生かして項目立てを考えていただければ、いろんな人がハッピーになると思う。
- 実感を伴う学びの大切さ、例えば中学校であれば実技4教科への言及であるとか、自分の手で何かを作るとか。買った方が安いものの中で日々暮らしていると、作っているものにどれだけの工程があり、どれだけの人が関わって、どれだけ大変かというものが失われてしまう。そこを教えてもらって、こういうことをしてくれる人がそこにいて、自分たちはこうしているんだという実感を取り戻すことができるのは学校以外にないので、そういったところも大事にしていければいいと思う。また、今一度ソーシャルスキルの喪失という課題に関心が向き、取り組んでいただければありがたい。
- 柱3に学校における働き方改革の更なる“加速化”という語句が使われているが、これまでの施策のどのような内容が加速化の対象になるのか。イメージを膨らませるために、そのあたりのビジョンがあれば教えていただきたい。

- 柱2を見ると、“確かな学力の育成”とか“外国語教育の推進”が並び、下の方に“不登校児童生徒への支援”がある。学校は学ぶところという思い込みから、子どもたちは息苦しい思いをしているのではないかと思う。“確かな学力の育成”とは非常によく聞く言葉だが、確かな学力とは一体何だということからしっかり考える必要があるのではないか。子どもに何を求めるのか、子どもは何を求めているのかと。(アンケート結果では) 子どもは楽しく学びたい、体をたくさん動かしたいということを望んでいる子が多かった。そこに“確かな学力の育成”というのが重なるのかどうか、同じものになるのかどうかというのが1つ疑問に思ったし、また、“確かな学力”の“学力”が何かということ、教員・保護者などみんなが共通認識を持てるような表現を望む。
- 4つの柱にうまくまとめられているという印象。数年前、高校1、2年生に今後の進路をどう考えているか聞いたら、9割、10割が県外で、関西圏や関東圏に行きたいという子が多かった。なぜかと聞いたら、流行が遅いということだった。今は県立アリーナもできたし、アーティストも来てくれているので、そういった部分では非常にハードルが下がってきていると思う。では何が足りないかといったら、既存の大学もあるし、もっともっとアピールできるような企業もあるので、こういった計画の先には産学官が連携して行って欲しいというのがある。高校生に香川県で何が欲しいか聞いたら、家族で遊べる場所とアーバンスポーツなどで自由に使える公園が欲しいという意見が非常に多かった。柱4もそうだし、柱2の中にある健康づくりのテーマもそうだが、子どもたちが遊べるスペースが非常に少なく、そういうハード面もあると思う。教育委員会の管轄を超える部分も非常に多いと思うので、その辺りの連携も考えながら計画を立てているのかお聞きしたい。